第3回鶴崎神社音楽祭

心や体に病を持った方々の回復への道のりを音でお手伝いする音薬師RonとTomo。

伊勢神宮での奉納演奏を始め全国の神社を中心に活動している。

「より高質のアンサンブル」を合い言葉に、倉敷市及びその周辺の若手弦楽器奏者により平成6年に結成され、県内を中心に活躍中。

今回はヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの弦楽五重奏を披露する。

★日　時　平成25年5月18日（土）　午後7時～8時30分
★場　所　鶴崎神社拝殿
★出演者　音薬師 Ron／Tomo（波音ミュージック）PM 7：00～7：30
倉敷アカデミーアンサンブル　PM 7：30～8：30

つるさき

発行所
鶴崎神社
〒701-0304
早島町早島2220
TEL 482-0097
FAX 697-6067
IP-phone
050-3318-1809
URL
http://www6.ocn.ne.jp/~turusaki/

春祭りの夜は高品質な音楽を

【社報もリニューアル】

平成十年から氏子の皆様方に神社の様子を紹介するべく発行致しております社報「つるさき」が前回で三十号を迎えたのを契機に、今号からより読みやすくA4サイズに拡大して、フルカラー印刷でお届けする事に致しました。

この社報を氏子と神社を結ぶ架け橋としてお気軽に読んで頂けたら幸甚に存じます。

当社の春祭りに合わせて、第三回鶴崎神社音楽祭を開催する運びとなりました。

今回は第二回に続き、精神を回復する音楽を提唱する波音ミュージック所属の音薬師Ron（ロン）・Tomo（トモ）さんと、倉敷市立短期大学学長の江島幹雄さんが指揮をとり本格的なアンサンブルとして活動を続ける倉敷アカデミーアンサンブルの皆さんにご出演頂きます。

春祭りに参拝して、心が和むプロの演奏を堪能して頂ければ幸いでございます。

伊勢神宮と出雲大社が揃って遷宮

今年、平成二十五年は五月十日に出雲大社、十月二日に皇大神宮（内宮）十月五日には豊受大神宮（外宮）の遷御（せんぎょ）の儀が行われます。

伊勢神宮は式年遷宮（しきねんせんぐう）と称し、二十年に一度、社殿を始めご神宝に至るまで新たに作り替えられます。二十年という定められた期間があるために式年の文字を冠します。また、出雲大社では概ね六十年～七十年に一度御本殿の屋根を葺き替える遷宮を行います。

本年までは、伊勢神宮が二十年毎に式年遷宮を繰り返しているのに対し、出雲大社は六十年や七十二年など多少のズレが生じていたために、同一年に両社の遷宮が重なる事は殆どありませんでした。

遷宮という重儀が、天津神（あまつかみ）の中で最も尊い天照大御神を祀る伊勢神宮と国津神（くにつかみ）の中で最も尊い大国主命を祀る出雲大社が同じ年に重なった事は偶然とはいえ、この上ない慶事となります。伊勢神宮には平成二十六年五月当社氏子にて参拝団を結成する予定です。詳細は来年ご案内致します。

伊勢神宮式年遷宮

式年遷宮は天武天皇が創意し、続く持統天皇の御代から国家最大の重儀として、千三百年にわたり連綿と続けられいる。
20年に一度新しい神殿を造営し、装束・神宝を整え神様にお遷りいただく儀式で、前回は平成5年に行われた。

出雲大社平成の大遷宮

古代においては高さ16丈（48m）と伝えられる出雲大社御本殿。高さ8丈（24m）の現在の御本殿は延享元年（1744）に造営され、以来文化6年（1809）、明治14年（1881）昭和28年の三度の御屋根替えと修理を経て今日に至っている。

新嘗祭奉仕のため参進する神職（神宮司庁提供）

皇大神宮の御正殿（神宮司庁提供）

仮遷座前／盛り砂の延道（H・20・4）

屋根替え完了後の御本殿（H・24・8）

神道Q&A

【質問】

地区の神社の祭りや神棚の神様にお供えするお酒にはどんな意味があるのですか。

また、神道での肉食に対する考え方を教えて下さい。

【答え】

お酒については、昔から「御神酒のあがらぬ神はなし」といわれてきたように、神事とは切っても切れない関係にあります。神事に見られるお酒は単なる嗜好品ではなく、神様にお供えをした御神酒を氏子の人々がお下がりとして戴くことにより、神様と人々はもとより、人と人を結びつける役割を果たしてきました。

例えば神前結婚式の三三九度や親族固めの盃など、新たな人間関係を結ぶ人生儀礼にお酒が用いられることからも明らかです。

お酒は、神前にお供えする神饌の中でも、米から直接造られるため、特に重要なものと考えられ、伊勢の神宮をはじめとする古社においては、境内域に酒殿を設けて神酒を醸造してきました。

新見の船川八幡宮では、県内唯一濁酒の醸造が認められている神社で、十月十五日の例祭には参拝者に振る舞われています。

このように神々とお酒は深い関係にありますが、中でも酒造りに関わる神様として、大物主神を祀る奈良の大神神社、大山咋神を祀る京都の松尾大社、酒解神・酒解子神を祀る梅宮神社などが酒造の神として崇敬されています。

つぎに肉食についてですが、神饌の品目に鳥や魚があるように、神道では基本的に肉食を禁ずるということはありません。

しかし、後世、仏教の不殺生という戒律の影響などにより、四本足の獣肉の食用が厭われるようになり、神饌からも遠ざけられていきました。

しかし、鳥類や兎の食用は続くとともに、山間部においては猪や鹿などが食用とされていました。

このため、諏訪大社の御頭祭の神饌である鹿肉や、宮崎県・銀鏡神社の例祭の猪肉など、神社の由緒により獣肉をお供えする事例も見ることができます。

縁結びの木

岡　敬氏撮影

境内東側の石段を登って行くと正面に大己貴神を祀る金刀比羅神社が見えてきます。その社の左手奥に楠と樫の木が絡み合って成長を続ける「縁結びの木」があります。まるで楠が樫を食べている様は必見です。

玉垣修理

東参道から境内入り口の南側に設置されている玉垣が、地盤沈下により柱石と笠石とが遊離して危険な状態になっていました。

大勢の参拝者で賑わう正月やお祭りなどで倒壊すると大事故に繋がる恐れがあるため、一月に総代会に諮り、早速修理を行いました。

危険箇所の玉垣を一旦全て撤去し、基礎にコンクリートを打って、組立を行い江戸期に造られた当時と同じように復元されました。

玉垣組立作業

安原伝兵衛物語

安原伝兵衛といえば、早島は塩津出身の鉱山師であり、石見銀山を世界有数の銀の産出地として名を広めました。また、郷里の氏神である御崎宮（鶴崎神社）本殿や吉備津神社御釜殿再建にも大いに貢献した早島の歴史上の著名人です。

昨年十二月、数年前に当社に参拝された西宮市在住の板垣衛武氏から安原伝兵衛（備中守）の一代記を物語りに起こして、関西の文学同好会が発刊する文藝「かうべ」に掲載された事から一部お送り頂きました。

読んでみると構成もさることながら物語としての完成度が高く、是非氏子の皆さんにも読んで頂きたく掲載する事にしましたが、何分長文であるため、十一回程度に分けて掲載する事にします。

1

「さあ、伝兵衛参るぞ、案内せい！」「ははあッ」石見銀山奉行大久保長安の威厳に満ちた声に、山師安原伝兵衛は紅白の垂れ幕を引いた。新しい間歩（坑道）の大きな入口が現れ、大勢の見物人がざわめいた。紅白の垂れ幕も型破りの大型間歩も開山以来初めてのものだった。

長安は茶目っ気たっぷりに、長槍を担ぐと間歩へ歩き出した。

「何んとなあ見たかや、槍を担いで入ってやったぞ」

「ほんに、ほんに」

見物人から驚きの声が上がった。

槍の穂先は間歩の天井に触れもせず、長安は誇らしげに奥へ進み、今日のために点された百匁蝋燭の下で立ち止まった。

「どうだ、すごい間歩になったな」

「はい、皆が驚いちょりましたがね」

「お前は資金が心配で従来通りの低くて狭い間歩を掘ると言っていたな。物事にはメリハリが必要じゃ。派手な演出がひとの心をとらえるからだ」

伝兵衛は頷きながら困惑した。それを察すると長安が言った。

「間歩の掘りようは全てお前に任せるし、資金については何の心配もない。ところで、お前の廃れた間歩……、これは失言じゃったな、新しく復活した間歩の名前はどうする？」

「はい、お奉行様さえよろしければ釜屋間歩にしたいと思っちょります」

「珍妙な名前じゃな、まあそれでよかろう。この間歩は大久保間歩とする。やがて奥で合流する双子の間歩、それは儂とお前の合作だな。全面的に応援するから思いっ切りやってくれ」

「ありがたき幸せにござります」

長年苦しんだ悩みがすうっと消えた。廃れ間歩の復活にかけた長い年月はいつも資金不足に悩み続けた。更に言えば、十八年前にこの石見銀山に来るきっかけも金銭問題からだった。

（次回につづく）

祭事暦

五月十八日（土）［午後五時］
八幡神社春季大祭
（露店あり）

五月十九日（日）［午前十時］
鶴崎神社春祭り
【供膳祭】

七月三十日（火）［午後五時］
夏越祭【輪くぐり祭】
（露店あり）

毎月一日（午前九時）月次祭

※月次祭はその名称の通り、毎月月初めの一日に、皇室の弥栄と国家の安泰、そして氏子の皆様方のご健勝をお祈りするお祭りです。

ご参列は何方でも拝殿にご昇殿下さいまして祭典に参列することができます。

また、祭典では代表者に合わせて玉串拝礼もございますので、新しい月が始まる一日には心新たにお詣り下さい。

神社のFAX番号が専用番号になりました。

FAX 086-697-6067